

②指導方法の工夫・改善

ア. 見通しをもたせる工夫

児童が主体的に取り組み自力解決をしていくために、その方法や結果について見通しをもたせる。

- 既習事項を確認できる設営等を活用しながら学習経験を想起させる。
- 児童の実態を把握した上で教師の発問を工夫する。
 - ・ 「前に同じような問題を解いたときは、どうしましたか。」
 - ・ 「〇〇を使って解けないですか。」
 - ・ 「答えはどれくらいになりますか。」
- 「もしかすると〇〇すればいいのではないか」という直観を大事にする。

※ 直観…直接に本質を見抜くこと

- 解決の目途が立っている児童の考えを一部発表させる。

イ. 机間指導における評価即指導

評価の際は児童と目線を合わせ、顔を見ながら指導する。

- 正しい答えを書いた児童に対しては、ほめながらまるをつけ、説明をつけくわえさせたり、思考レベルを高める問題を与えたり、類似問題に取り組みせたりする。

※ できた子どもへの指導として指導案（本時→実際→指導上の留意点）の中に○印をつけ明記する。（○…………）

- 間違えた児童に対しては、間違えているところに線を引ながら見直しをさせ、再度机間指導しまるつけをする。

※ できなかった子どもへの指導として指導案（本時→実際→指導上の留意点）の中に△印をつけ明記する。（△…………）

- 解き終わっていない児童に対しては、ヒントを与えながら個に応じた指導を行い、再度机間指導しまるつけをする。